



ウミアメンボとの出会い

かがわのりひろ
香川周大（友の会会員）

みなさんは「ウミアメンボ」という昆虫を知っていますか？ 徳島県立博物館にも展示されていますが、意外と見過ごしている方もいるかもしれません。今回はこの場をお借りして、昆虫採集が趣味の私と、地味ながらも魅力あふれる昆虫「ウミアメンボ」との出会いを紹介したいと思います。

ここでは、「ウミアメンボ」という名前を、海洋に生息するウミアメンボ亜科の総称としてお話しします。日本近海には6種類のウミアメンボが生息しており、徳島県では遠洋に生息するツヤウミアメンボ、センタウミアメンボ、コガタウミアメンボの3種類が見られます。海岸にも昆虫はいますが、山の中ほど多くはなく、海面上にはほとんどいません。その中でも、これらウミアメンボは唯一遠洋に適応できた昆虫で、時折、風や波の影響で海岸に漂着することがあります。

そんなウミアメンボとの出会いは、2022年9月7日のことでした。前日の熱帯低気圧の影響によるウミアメンボの漂着を期待して、美波町田井ノ浜まで足を運びました。海藻や流木等が打ち上がっており、この中にウミアメンボがいるかもと期待に胸を膨らませました。しかし、なかなか思うように見つからず、タイムリミットを気にしながら流木の陰を見たそのとき、乾いたウミアメンボの亡骸が目にとまりました。「やった！」と思い目を凝らすと、何匹もの亡

骸が…。「もしかして…」と、そっと流木をひっくり返すと、そこには生きているウミアメンボが！ 流木の下で乾燥から身を守ることができたのでしょうか。海水と一緒に持ち帰り、ウミアメンボを家で泳がせてみました。ぴょこぴょこと泳ぐ姿を見ることができて感動しました。

是非、皆さんも砂浜を見かけたとき、風が強いときなどには、普段私たちの目の届かない遠い海の上で暮らしているウミアメンボに、思いを馳せてみてください。



図1 美波町田井ノ浜（2022年9月7日）



図2 遠洋にいるセンタウミアメンボ（田井ノ浜産、左）とため池などにいるヒメアメンボ（右）の比較。脚も含めた大きさはそれぞれ1 cmと2 cm

EXPO2025 を機会に、徳島や 県立博物館の賑わいを期待する

ほん だ そういち
本田壮一（友の会副会長）

私は今は高齢者の 67 歳だが、1970 年は小学校 6 年。「人類の進歩と調和」をテーマとした大阪万博 (EXPO'70) を、大阪に親戚があったことから、春休みや 5 月の修学旅行、そして夏休みの家族旅行で三度見学した。外国や外国語に興味を抱くきっかけとなり、英語塾に通い「What time is it now?」などの英会話を練習し、ガイドブックを求め、多くの外国語の挨拶を覚えたものだ。長い行列だったが、高さ 130 メートルで、頂上に槌と鎌のモニュメントのあった赤色のソ連館や、アポロ 12 号が持ち帰った「月の石」が目玉のアメリカ館など、多くのパビリオンを思い出す (図 1)。また、電気自動車や「動く歩道」に驚いたが、現在は実用化されている。私にとって万博の影響は大きく、科学にも興味を持つことになった。

2025 年 4 月 12 日開催の大阪・関西万博 (EXPO2025) の開会式を、テレビで視聴した。コブクロが歌うテーマソングの「こんにちは、桜舞う、この地球は生きている」というフレーズを聴き、55 年前の「世界の国からこんにちは」

を思い出した。開幕後、最初の土曜日に、徳島駅前午前 6 時発の高速バスで、大阪・夢洲の会場へ向かった。9 時の開場直後に到着したが、手荷物検査には行列ができていた。世界の国々の旗が無数になびいており、まさに万国博と感じた。

徳島ゆかりのモラエス (1854-1929、ポルトガルの総領事などを歴任) は、大阪で開催された内国勧業博覧会 (1903 年) の出展を準備したと聞く。そこで、ポルトガル館の予約をとり、並ばずに入館できた。隈研吾氏設計のパビリオンは、リサイクル漁網などを用いていた (図 2)。ポルトガルと海洋との古くからの繋がり、そして日本との約 500 年の貿易・文化交流の歴史を学んだ。また、外国パビリオンだけでなく、大屋根リングや噴水をスクリーンにしたショーも見どころであった。

関西パビリオンの徳島県ゾーンも訪ねた。藍染めや阿波踊りの体験とともに、若杉山の辰砂 (図 3) や、木頭の太布、木屋平の鹿服が展示



図 1 EXPO'70 のパビリオンカード

左：太陽の塔、右上：ソ連館、右下：アメリカ館



図 2 ポルトガル館 (夢洲)



図 3 辰砂の展示 (関西パビリオン、4 月 19 日)

されていた。興味を持った外国人の観客が、徳島や徳島県立博物館を訪ねるきっかけとなることを期待している。

今回の万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」。2017年に105歳で亡くなられた日野原重明^{ひの はらしげあき}医師は、「運命は与えられるものではなく、自分から動いてデザインしていくものだ」とおっしゃっていた。1970年の大阪万博に連れて行ってくれた祖母や父は他界したが、大阪で万博が盛大に開幕したことを墓前に報告した。

わたしも万博に行ってきました

T.A. (友の会会員)

梅雨明けの日差しの下、万博を訪れました。事前予約^{かな}が叶わず、人気のパビリオンは長時間並ぶと聞いていたものの、思ったよりスムーズに入れました。イタリア館やフランス館では、美術品などの貴重な展示品を間近で見ることができ、とても感動しました。ドイツ館では、環境への先進的な取組みが紹介され、未来について考える機会になりました。

他のパビリオンもそれぞれ特色があり、建物や展示を眺めるだけでも十分楽しめました。ただ、予約がないと入れない施設も多く、体験できなかったのは少し残念でした。

会期が終わるまでに、もう一度訪れることができればいいなと思っています。



大屋根リング

友の会行事報告

とくしまちゅうおうこうえん し せき 徳島中央公園の史跡めぐり

○日 時 12月1日(日) 13:30～16:00

○場 所 徳島中央公園

○担 当 石尾和仁(友の会役員)
小林篤正(博物館学芸員)
坂東 泰(博物館学芸員)
丸山直生(友の会事務局)

○参加者 7名

徳島城博物館の企画展「これが凄い！徳島の歴史」^{おもて ごてんていえん}と表御殿庭園を見学後、県立博物館学芸員の解説で徳島中央公園内の史跡をめぐりました。徳島の歴史を振り返りながら、中央公園内で行われていた「徳島おどりフェスタ」^{にぎ}の賑やかな雰囲気の中で、歴史散歩を楽しみました。

(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●田中節子^{た なかせつこ}さん

徳島城博物館で詳しい解説を聞きながら、冬の企画展の貴重な資料や、旧徳島城表御殿庭園をゆっくり見ることができて良かったです。徳島城の特色である屏風折塀^{びょうぶおれべい}の柱を支えた舌石^{した いし}が今も残っており、それを見られるなんて嬉しいです。

友の会行事報告

けっしょう ビスマスの結晶をつくろう

○日 時 2月9日(日) 13:30～15:30

○場 所 徳島県立博物館実習室

○担 当 岩城秀行(友の会会員)
中尾賢一(博物館学芸員)
丸山直生(友の会事務局)

○参加者 18 名

ビスマスは^{そうえん}蒼鉛ともよばれる^{きんぞくげん}金属元素の一種です。ビスマスの結晶は、^{さんかひまく}酸化被膜の構造色によって虹色に輝きます。また、氷が水に浮かぶように、液体ビスマスの表面に固体ビスマスが浮かぶ性質をもちます。この性質を利用して結晶をつくりました。試行錯誤^{しこうさくご}を繰り返すうちにコツがつかめ、大きな結晶を作れるようになりました。(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●^{たかた みき こ}高田美紀子さん

ビスマスや他の物質の性質について周期表で解説していただいた後、溶かしたビスマスにクリップを入れました。しばらく待ち、クリップをゆっくり引き上げると、結晶が出てきました。結晶の色は、酸化の具合により違いがあるそうで、紫・青紫・赤紫・青・ブロンズ・シルバー等、とても美しい色でした。ほぼ半世紀ぶりの理科実験のようで、楽しい時間でした。帰宅後も、ライトで照らし、キラキラ光る結晶を眺めて楽しみました。熱で溶けたビスマスが冷えて、地表や地中にある鉱物・岩石へと変化する様子を、短時間で体験したみたいでした。

●^{てらしまゆき お}寺島幸生さん

科学とアートの要素があり、作ってみないとどんな形・色・輝きになるかわからない、世界に二つとない結晶ができました。階段状の表面構造がとても魅力的な結晶です。材料の溶かし方、結晶の種^{たね}として差し込むクリップの形とタイミング、引き上げるタイミングと速さなど、^{じゅうにん}いろいろな要素で十人十色の結晶ができたのがとてもおもしろかったです。いろいろな教育場面に広がっていきそうなイベントだと思いました。



ビスマスの結晶

●^{ひら お じゅん こ}平尾 順子さん

金属の結晶が出来るのを見たのは初めてで、その四角い形と紫色・青色・金色などのキラキラとしたきれいな色合いに興奮しました。カセットコンロで簡単に金属を溶かせるなんて！家に帰ると思わずアマゾンで「ビスマス」をチェックしてしまいました。

●^{よしおか しげる}吉岡 滋さん

学芸員の解説に、科学の世界の奥深さと宇宙の広大さを感じました。美しい結晶なので、飾って楽しめます。

●^{よしおかけい こ}吉岡啓子さん

ビスマスを太陽光で見ると、とても美しいです。研磨する方法も教えてほしいです。

●^{いしかわ ゆう}石川 優さん

子供2人と参加しました。四角い結晶を釣り上げるのが楽しくて、何度も挑戦しました。自分で材料と道具を揃えるのは大変なので、このような機会があると助かります。作った結晶を持ち帰れるのも嬉しかったです。大事に飾っておこうと思います。



結晶をつくる様子

友の会行事報告

化石をさがそう

○日 時 3月15日(土) 13:00～16:00

○場 所 実習室・野外

○担 当 中村由香(友の会役員)
おぶせしやうた
小布施彰太(博物館学芸員)
なかおけんいち
中尾賢一(博物館学芸員)
まるやまなおき
丸山直生(友の会事務局)

○参加者 32名

はじめに県立博物館学芸員から、この行事で使用する岩石が勝浦町の恐竜化石含有層の岩石であることや、化石さがしのコツなどが説明されました。保護メガネ、軍手の着用など、安全面に配慮してスタートし、参加者を2班に分け、交代制で行いました。冷たい小雨の中でしたが、恐竜化石の発見をめざして、ワクワク感と没入感に浸ることができました。(丸山直生)

Voice 参加者の声

●^{いしかわ ゆう}石川 優さん

3月15日の友の会行事「化石をさがそう！」に参加させていただきました。数日前の3月12日に、ニュースで新たに化石4点が見つかったと取りあげられていて、「よし、頑張って新しい恐竜化石をなんとしても見つけるぞ」と気合いが入りました。あいにくの雨でしたが良い体験ができました。

●^{たむらゆうき}田村祐記さん

当日は小雨で寒い中でしたが、開催頂きありがとうございました。岩石を割り、割った面を確認する作業を何度もくり返して、やっとのことで見つかる化石。恐竜化石の発掘は気が遠くなる、大変な作業だと感じました。子どもたちも化石らしきものを見つけると、すぐに先生の



化石を探す様子

ところに行って聞いており、熱心に取り組めたと思います。子どもたちが見つけた化石を何度も確認頂いた先生方、ありがとうございました。今回は、植物と貝の化石を見つけることができました。また機会があれば、恐竜化石の発見にチャレンジしたいと思います。

●^{たけの そうま ゆきこ}竹野颯馬さん・有希子さん

初めての参加ですが、とても親切な学芸員さんに教えていただき楽しむことができました。3歳の息子に対しても何度も答えていただき、嬉しくもあり恐縮でもありました。

地層の名前は少し分らなかったのですが、スパッと割れてしまうのがこの地層の岩石の特徴だったのでしょいか？ただ、たたき方のコツをつかむまで時間がかかりました。

作業をして感じたことは、化石を見つけるのはとても根気のいることで、砂漠の中のダイヤを探すようなものだなと思いました。子ども共々楽しめました。



化石発掘に用いた道具



「化石をさがそう」参加者の記念撮影

報 告 令和 7 年度総会

令和 7 年度の友の会総会を、4 月 29 日 (火・祝) 14 時 45 分より博物館 3 階講座室にて開催しました。

議事につきましては、令和 6 年度事業報告・決算報告、監査報告、役員改選、令和 7 年度事業計画・予算について審議した結果、すべて承認されました。

1. 令和 7 年度友の会行事

(1) たのしい！おさかなかんさつ (終了)

実施日：6 月 7 日 (土)
場 所：徳島市 園瀬川 そのせがわ

(2) 夜の文化の森たんけん (終了)

実施日：7 月 26 日 (土)
場 所：文化の森総合公園

(3) 漂着物をさがそう 県南編

実施日：9 月 28 日 (土)
場 所：美波町 田井ノ浜 みなみちよう たい はま

(4) 新町川沿いの歴史散歩

実施日：10 月 18 日 (土)
場 所：徳島市

(5) 化石をさがそう！

実施日：2 月 21 日 (土)
場 所：博物館 3 階実習室・野外

(6) 室戸ジオパーク・廃校水族館と御厨人窟 みくろど
(空海・四国遍路) めぐりバス旅行
実施日：3 月 15 日 (日)
場 所：高知県 室戸市方面 むろとし

2. 広報活動

博物館広報印刷物 (月別催し物案内、企画展チラシ、博物館ニュース、文化の森から 等) を提供します。

3. 図録の販売

- ・企画展図録『タイムトリップ中世！一くらしのモノがたりー』の印刷・販売をします。
- ・企画展図録『中国西南部の旅人たち』の印刷・販売をします。

4. 友の会会報の原稿募集及び発行・配布

会報「アワーミュージアム」No. 76・77 の発行・配布をします。

5. 会員募集

- (1) 来館者に案内チラシを配布します。
- (2) 博物館普及行事において、参加者に友の会の案内を行います。

6. 友の会グッズの販売

ポストカード、クリアファイル、缶バッジの販売をします。

7. 令和 7 年度 友の会役員

会 長：結城孝典 ゆうき たかのり
副会長：徳野壽治、本田壮一、戸川美史 (館長) とくの としはる ほんだ そういち とかわよしふみ
幹 事：行成正昭、大杉洋子、幸坂敏行、坂井なつ ゆきなりまさあき おおすぎようこ こうさかとしゆき さかい なつ
監 査：石尾和仁、中村由香 いし おかずひと なかむら ゆか
事務局長：中澤晴子 (副館長) なかざわはるこ
事務局員：庄武憲子 (課長)、茨木 靖 (課長)、植地岳彦 (課長補佐)、丸山直生 (係長)、鉄谷雅史 (係長)、長谷川賢二 (学芸員)、鈴木佑弥 (学芸員) しょうたけのりこ いばらぎ やすし うえ ち たけひこ まるやまなお き てつたにまさふみ は せ がわけん じ すず き ゆう や

新スタッフ紹介

●^{とかわよしふみ}戸川美史（館長）

本年4月に博物館長に就任いたしました戸川美史と申します。歴史ある県立博物館の運営に携われることを、とても誇らしく感じています。

私の出身は勝浦町で、恐竜の化石が見つかった場所であり、当館の重要なコンテンツとなっていることから、館長就任が決まった際には大いなるご縁を感じました。

一方で大役を担うことになり、戸惑いを隠せないこともありましたが、職員に助けられ、また知らなかったことを学べる機会に恵まれたことに感謝しています。

さて、当館は令和3年にリニューアルオープンし、さらに魅力を高めるため、学芸員が工夫を凝らし、多くの方に当館を楽しんでいただけるよう努めています。とりわけ友の会では、会員の皆さんに楽しみながら勉強していただける行事を開催していきたいと考えている他、今年は「文化の森開園35周年」と「大阪・関西万博の開催」も相まって、文化の森総合公園各館が魅力あるイベントを行うこととなっており、県内外の多くの方々に当館を楽しんでいただけるよう取り組んで参ります。

今後とも徳島の自然や歴史・文化の拠点であ

り、だれもが集い、楽しく学べる場所である当館をどうぞよろしくお願いいたします。

●^{ないとうはなか}内藤芳香（植物担当）

皆さま、初めまして。今年度4月から徳島県立博物館の植物担当学芸員として着任いたしました、^{ぐんまけん}内藤芳香と申します。出身は群馬県で、^{にいがたけん}昨年まで新潟県の大学に在籍していました。これまでずっと東日本に住んでいましたが、この度ご縁があつて徳島県に参りました。

私は植物の中でも水生植物、いわゆる水草を対象に研究を行ってきました。水生植物はため池や田んぼなどの水環境に生育しています。山を歩いて植物の観察をする方は多くても、ため池をめぐる水生植物を観察する方は多くないと思います。水に特化した植物の面白さを皆さまにお伝えできればと思います。

徳島県は西日本で二番目に高い^{つるぎさん}剣山、^{おおぼけ}大歩危^{きょう}峡をはじめとした溪流、広い海岸など、多様な環境や気候を有しており、3000種を超える植物が生育しています。これまで多くの先生方が徳島県の植物について記録、研究されてきましたが、今でも新しい植物が見つかります。皆さまとの活動を通して、徳島県の自然の記録を後世に残していけるよう尽力いたします。



●まつうらせい や
●松浦靖也（美術工芸担当）

美術工芸担当の学芸員として新たに加わりました、松浦と申します。出身は栃木県で、宮城県内の大学に進学後、東京都内の民間企業を経て、このたび博物館の一員として温かく迎え入れていただきました。

今後は江戸時代までの美術工芸資料全般を担当することになりますが、その中でも特に「江戸時代の絵画」に強い関心があります。

江戸時代は、幕府と藩による安定した治世のもとで文化芸術が著しく発展しました。絵画においても多様な流派が生まれ、画人同士の活発な交流もおこなわれました。徳島ゆかりの画人の多くは、江戸や京、大坂といった大都市に向いて腕を磨き、故郷に戻ったのち、弟子にその技を伝えました。ほとんどの作品は長い時間の中で失われてしまいましたが、残された作品からは高い技術力や江戸時代の人々が持つ精神性を垣間見ることができます。

魅力が詰まった徳島の美術工芸資料の面白さを皆さまと一緒に味わい、さらに多くの方々に伝えていきたいと考えております。



●や の だいすけ
●矢野大輔（歴史担当）

4月に歴史担当学芸員として着任しました矢野大輔と申します。徳島県のお隣兵庫県からやってきました。地理的にはさほど遠いわけではなく、身近な地で学芸員として働けることをうれしく思っています。

私が専門とするのは、歴史分野の中でも日本中世史です。大学・大学院で、平安時代末期から鎌倉時代の荘園を対象に研究を行ってきました。荘園は、学校の日本史の授業の中でも特に教えるににくいと言われており、「よくわからないもの」や「ややこしいもの」と思われることが多いように思います。しかし実際は、それぞれの地域で生きた人々の様子に迫ることができる興味深い研究対象でもあります。彼らの歴史に迫ることは、戦国大名のような派手さはありませんが、同じ地域に暮らす人間として親近感を持つことができ、面白いものです。

今後は徳島県立博物館の一員として、ここ徳島の中世に生きた人々の歴史を掘り起こしていけたらと考えております。



アワーミュージアム 第76号

2025年9月15日発行 : 徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内

TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197 E-mail: mus-tomo@bunmori.tokushima.jp